

災害弱者への緊急時支援体制は万全か？ (災害時要援護者台帳の整備と利活用)

くびき野GIS協同組合

連絡先：くびき野GIS協同組合事務局

上越市藤野新田349-2 上越起業化センター201号室

TEL：025-539-5131

URL：http://www.j-gis/coop/

キーワード：GIS、災害弱者、要援護者、安否確認、避難支援

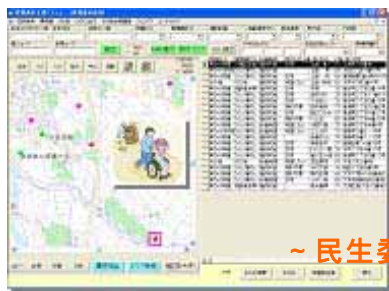
展示概要：

災害発生時、人的被害の多くは、一人暮らしの高齢者をはじめとする、いわゆる災害弱者といわれる、災害時要援護者の方々です。

災害時の安否確認や避難誘導、さらには避難所対応等の支援を迅速かつ円滑に行うためには、災害時要援護者台帳の整備が必須です。この名簿は災害時に自力で避難出来ず、周りの人の支援を必要とする人を対象として、「手上げ方式」または「同意方式」、または両方を併用して作成します。これらの情報は、地域の自主防災組織や民生委員、児童委員、警察、消防などに提供し安否確認や避難支援に役立てます。また、支援の際は、災害発生箇所や避難区域の特定など地図は欠かせません。

上越市が本年度導入した「災害時要援護者支援システム」は、高齢者の見守りネットワーク事業と連携し、自治体の要望を可能な限り取り入れ構築したGISです。このシステムを活用し、地図上から要援護者を検索し、「安否確認リスト」や「要援護避難者リスト」を迅速に作成し、支援体制をとることが可能になります。現在、要援護登録者が1万人を超え、災害弱者の方々の不安が高まっていることを示します。この度の中越沖地震発生時には構築中であり、残念ながら活用することが出来ませんでした。その必要性を十分認識する結果となりました。

～ 思いがけない災害の時、助けが必要な人がいます～



～ 民生委員や町内会長と協力し個別訪問を実施～

新潟県中越沖地震 お年寄りまた犠牲

(2007年 7月 17日 火曜日 産経新聞 東京朝刊 社会面)

早期の復旧、ケア課題

16日の新潟県中越沖地震では、災害弱者といわれる高齢者ばかりが古い家屋の下敷きになり、命を落とした。現地では柏崎市を中心に広い地域で電気やガス、水道などのライフラインと交通網が寸断され、多くのお年寄りが避難所生活を強いられている。平成16年10月の新潟県中越地震では発生直後の死亡者だけでなく、長引く避難生活でお年寄りの犠牲者が相次いだ。余震が続く中、早期のライフラインの復旧と避難住民へ十分なケアが求められる。

